

STOP! THE YANBA DAM



CONTENTS

vol. 28

- ◆ ダムにお金は出さない
地下水・雨水利用にしよう!
……武笠紀子
- ◆ ハッ場ダム予定地の失われた風景・
残したい風景
……秋本千秋
- ◆ 水道法改正 「水」が売り買いされる?!
……大野博美
- ◆ 「ハッ場あしたの会」講演会報告
「ダムに抗う」—主権者として生き
抜く人たち「清流に殉じた漁協組合員」
……中村春子
- ◆ 編集後記
……入江晶子
編集：猪俣悦子



ハッ場ダムをストップさせる千葉の会

代 表：武笠紀子・中村春子

住 所：〒285-0825 千葉県佐倉市江原台2-5-29

TEL : 043-486-1363

ウェブ：<http://yanbachiba.blog102.fc2.com/>

2018年3月5日発行

ダムにお金は出さない 地下水・雨水利用にしよう!

千葉県は、今でもハッ場ダムの水が必要だとの立場を変えていませんが、近年の水あまりは県水道の資料からも明らかです。『大湯水』に備えるためにという言い訳もありますが、ハッ場ダムは水質が悪いし造られる場所が最悪です。

吾妻川の水は強酸性で、多量の石灰を投入して中和する手間とお金がかかる上、貯まった石灰生成物の浚渫にも多額の費用が必要です。ダムは維持管理費と補修費のためにも高額な費用がかかりますので、高い水利用料金を払い続けなければなりません。千葉県はこれまでもダムの水利用の権利のために多額の税金を使ってきましたし、今も使い続けています。しかも高い水料金のためか、水道事業の採算も危ぶまれていますし、当然、ハッ場ダム完成後の料金値上げも予測されます。

皆さんと10年続けたハッ場ダム訴訟では、「千葉県からのハッ場ダム負担金支出は法的には問題ない」という理由で終わり、ダム建設が始まりましたが、地滑り地帯のために工事方法の変更や計画期間の延長で建設費が膨張しています。やがて再び、負担金増額要求が国から来るはずで、ムダなダムにこれ以上税金を使わないこと、今後は持続可能な地下水利用・雨水利用を進めることを働きかけていきたいと思えます。(武笠紀子)

お知らせ

ハッ場ダムをストップさせる千葉の会第14回総会

3月29日(木) 13:30～

市民ネットワーク千葉県4階会議室

(TEL 043-201-1051)

●会費納入のお願い (一口 1000円/年)

会費振込先：00120-5-426489

ハッ場ダム予定地の矢矧

私がハッ場ダム予定地に頻りに通い始めてから五年が経過しました。きっかけとなったのは、やまた旅館の先代のご当主、豊田嘉雄さんのご著書「湖底の蒼穹」（関東建設弘済会）を読んだこと、豊田さんは生前ハッ場ダム絶対反対期成同盟の中心メンバーでした。（この本は群馬県立図書館に収められています）この本に出会う以前にもハッ場ダム予定地に行ったことはありましたが、今まで自分が何も知らなかったことに衝撃を受け、後悔し、そして好奇心もあり今の現地を知りたいと思ったのです。

現地に通うようになり、まずは自然の豊さに感動しました。その頃は既に川原湯温泉の温泉宿はほとんどが解体されておりました。



↑2013年夏・解体中の山木館

その頃、私は水没予定地のメインストリート以外の林や森の中を好んで歩きました。水没予定地の美しい大自然、でも訪れる度に変わっていく景色に落胆しながらも、せめて写真に残し、ハッ場ダムの現状を少しでも多くの人に伝えていかなければと思うようになりました。

毎月、毎週通っても常に新しい発見がありました。

春

春はふきのとう、桜、つくし、かつて里で暮らしていた人々が庭先で育てていたであろう水仙、スプリングエフェメラル（アズマイチゲ・ヤマエンゴサク・カタクリ・イチリンソウ）と呼ばれる春の妖精たち。四月上旬になると川原湯の川原湯の上湯原地区に一斉に咲き始めました。花を咲かせるのは晴れた日のほんのつかの間の二週間です。

豊田 嘉雄 「湖底の蒼穹」（一九九六年刊）

このところの川原湯は不気味なぐらい静まり返っている。私は不自由な足をかばいながら歩くのだが、川原湯の辻に満ちていたあの怒涛のような反対の叫びは、『過去』という彼方に去ってしまったことを知らされる。

だが今になっても、なぜダムが必要かという、私らを納得させる根本的な議論は皆無だ。建設省や県の意図だけが強調され、権力を行使され、ひたすら私らが疲労するのを待っていた。そして少しずつ少しずつ反対運動は切り崩されていったのだ。

私はどんなに頑固者だと言われようが、最後までハッ場ダムに反対し、このダムは造ってはならないと叫び続ける。いつかきつと、やまたのよつちゃんも正しかった、と認められる日がくることを信じている。



アズマイチゲ



イチリンソウ



ヤマエンゴサク



カタクリ

れた風景・残したい風景

昨年2017年の春に川原畑地区で最後の家屋が解体されました。人と家がなくなった川原畑の春は生き物たちにとってつかの間の楽園でした。



↑2017年春 川原畑にて

この頃、林の中でよくニホンカモシカに出会いました。まるでこの土地の主かと思うような凛々しいカモシカ、お母さんから巣立ったばかりのような可愛い子供のカモシカもいました。カモシカは警戒心が弱く、非常に好奇心が旺盛。こちらが驚かせなければ10分でも20分でもこちらを見つめていたり、のんびりと草を食べたりします。

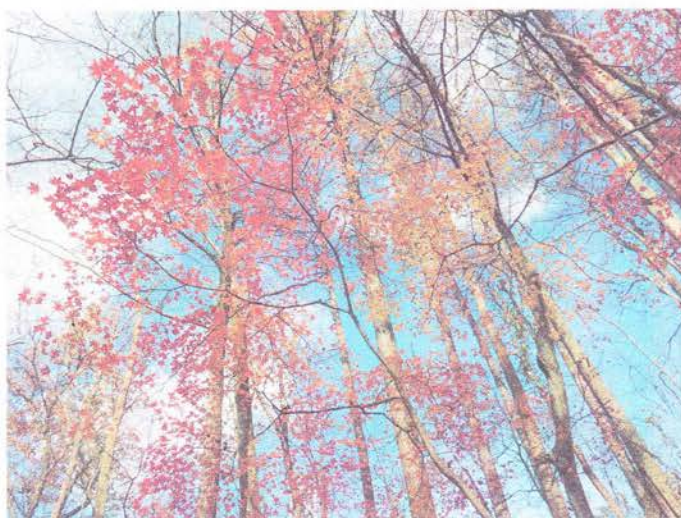


川原湯の雑木林の中にあるカザグルマの自生地。かつてこのカザグルマの自生地の持ち主だった女性は、「私の秘密の花園」と言いました。今でもふとあの夢のような時間を思い出すことがあります。



秋

秋は紅葉。ここも秋になると一人でよく訪れた場所。本体工事が始まる直前の紅葉は各段に美しかった。



10年後、20年後のハッ場ダム周辺はどのようになっているだろうか。ここを愛する一人間として、これからも物言えぬものの代弁者でありたい。

そしてこの地で暮らす人々も生き物達全てがずっとずっと幸せであってほしいと願う。

ハッ場あしたの会 秋本千晶

水道法改正 「水」が売り買いされる?!

安倍政権が、水道事業の民営化を狙っている。今国会で、「コンセッション方式」を導入しやすくするための改正水道法が成立するという。コンセッション? ジャズセッションではない。水道施設を自治体が所有したまま、経営権を民間企業に売却する方式だとか。どうも麻生財務大臣がご執心で、「日本の水道をすべて民営化します!」とアメリカで叫んだらしい。えっ、水道は厚労省所管。なんで財務大臣が? これだけで、十分怪しいではないか。調べてみると、やっぱり世界の水ビジネスがからんでいる。

世界の水ビジネスは、2020年には100兆円規模になるといわれる。市場参入を狙う日本企業が、世界最高と言われる日本の自治体の水道管理技術のノウハウが欲しくて、水道事業民営化を強力にプッシュしているのだ。ハゲタカどもめ! 国民の命を支える「水」を、カネになる商品として狙うなど、とんでもない!

政府は、「赤字だらけの自治体水道事業の財政負

担を減らし、民間の効率的な経営方法を導入して基盤強化する」などと説明している。だが待てよ。人口減少を無視して過大な水需給予測を続け、無駄なハツ場ダム建設に、千葉県や佐倉市の巨額の公金を投入させてきたのはどこの誰だ。民営化を叫ぶ前に、いまだに「ムダなダム」を作り続ける国策を改めるべきだろう。また、「民営化すれば水道代は安くなる」もウソ。企業の利益と税が付加され、水道代は確実に上がる。

ヴェリオスなど水メジャー企業を生み出した水道民営化の先進国フランスでは、100年以上続いたパリの民営水道が、公営に戻されることになった。この25年間で水道料金が3倍以上になり、サービスも著しく低下。市民の不満が爆発したという。

その愚かな道を進もうとしている日本。「ストップハツ場」のMLでも、水道民営化の是非について情熱的な議論が闘わされている。水道普及率97%を誇る日本がどっちへ進むのか、私たちもしっかりと考えなければならない。
(大野博美)

「ハツ場あしたの会」講演会報告

「ダムに抗う」—主権者として生き抜く人たち「清流に殉じた漁協組合員」

ハツ場ダムの情報を、現地の群馬県長野原町から発信している「ハツ場あしたの会」第12回総会に、フリージャーナリストの相川俊英さんをお呼びし、講演会を行いました。

相川さんはメディアの仕事を経て、現在は全国を飛び回りながら、ダム問題や地方自治、地方議会、地域再生などに立ち向かう市民を取材しています。

問題の現場から発信する情報は、聞いていて納得できる話が多く、中でも「何かを変えようとする人への5つの心得」は、私自身も常に心しなければならぬと、心に残りました。

それは…

①「説得よりは共感を」

説得とは上から一方通行で行うもの。共感は双方向の会話によって得られるもの。声高に自らの正義・正論を一方向的に語るのは愚の骨頂。敵を作るだけ。

②「すべてを伝えようとすると、何も伝わらない」(そうかな?)と思いつつ聞いていると、情報過多は情報不足と同じ。消化不良を起こし、その後の回避の原因になる。基本は、日常の言葉で話すこと。

③「遠い意見の人にも届く言葉を」

自分から最も遠い意見を持つ人にも受け止めてもらえる表現で話すことが大切である。

④攻撃しても味方は増えない。役人を論破しても、賛同者は一人も増えない。

⑤息苦しいと続かない。

正しさと苦しみがセットになってしまったら、もう続かない、等々。

最後に、「最大の原因は、日本社会の中に主体性がないこと。各々が、地域であり、住民であり、主権者であるとの自覚を持つことが重要だ」と強調されました。
(中村春子)

編集後記

2016年12月の計画変更で事業費が5320億円に増額されたハツ場ダム。3度も工期延長を繰り返し、当初の2000年度完成予定が2019年度に。人口減少による水余り、治水上も役立たないダムに新年度も全体で435億円、千葉県では37億円の血税が投入されます。

一方、千葉県は今年4月から夜間定時制高校の給食を全17校で廃止。夕方仕事先から学校に駆け込み、仲間や先生と温かい給食を食べながらほっとできた時間がなくなります。給食費1億円の削減で生徒の笑顔や希望を奪っているのか。

(入江晶子)